

公益財団法人 千葉県教育振興財団

社会学部現代社会学科

2年 浅野 諒子

1. 実習企業（団体）の概要

財団は千葉県民の教育・スポーツ・文化活動を応援している。文化財センターでは、千葉県内における遺跡等埋蔵文化財の調査や文化財保護思想の涵養・普及を図り、県民の生活向上と地域文化の充実に寄与することを目的に活動している。

- ・ 法人設立 昭和49年11月1日
(財)千葉県文化財センターとして千葉県教育委員会より設立許可
平成17年 9月1日 (財)千葉県教育振興財団に名称変更
平成24年 4月1日公益財団法人に移行
- ・ 本部 千葉県四街道市鹿渡 809 番地-2
- ・ 理事長 平林 秀介

2. 実習内容

内勤：注記、水洗、拓本 外での作業：穴掘り、泥削り、土削り

今回注記した土器は縄文中期の土器である。上下左右を見分け、右下に人間でいう戸籍を書く。注記した後標本するときは注記した文字が消えないよう、最後にラッカーを塗る。水洗は表、裏、側面と細かいところまで泥を磨いてとる。土器のもろさに強弱があるのもろいときは優しく磨き、そうでないときは強く磨く。穴掘りは、柔らかい土を堅い土に当たる限界まで掘る。

3. 実習の成果

学んだものはかなりある。なかでも一番学んだのは、社会人としての基本的なマナーと自ら進んで仕事を見つけることである。仕事は何もなく、ただ突っ立っていた私は注意されてしまったので反省した。これからは進んで仕事をみつけるようにしていきたい。そして、積極的に仕事をするのである。社会に出てからも自ら進んで仕事をしていこうと思う。外での肉体労働は休憩も必要である。無理をするのではなく、特に夏の暑いときは休憩し作業することも大事であることを学んだ。周りの職員の方たちは、真夏の炎天下の中での仕事でも周りに気遣える方々であったので、私も見習いたいと思った。また、内勤の方たち、外での作業員の方たちともに、作業しているときと、休憩しているときのオン、オフのスイッチをうまく切り替えていた。これも見習い、今後の大学生活などに活かしていきたい。

4. 実習の感想

内勤の作業では、注記をしているとき、前後左右の向きがわからなかったのも、職員の方に聞いてみると一瞬でわかり、さすがだなと感じた。そして、慎重な作業であり、注記は集中しなければならない。注意深く作業したほうが良いと思った。水洗は、簡単だと思って大雑把に洗うと逆に破片がぼろぼろと落ちてきたので、意外と難しかった。土器を洗っていると、「土器片錘(どきへんすい)」という特殊な土器があり、見つかることも感激した。破片同士が同じ土器の場合、ぴったりとくっつくことがある。これは非常に面白かった。拓本づくりは、慎重な作業だった。土器の模様を炭で紙に移す作業だが、扱う紙「画仙紙」が繊細な紙で、最初は早く画仙紙が破れてしまいそれほど難しかった。改めて自分の不器用さががっかりした。外での発掘作業は、炎天下の中、体力をつかう仕事だった。じょれんは刃が危なく、いしょくは持ち方がうまくできず、みは土を運ぶと重くなる。しかし、周りの職員の方々が、笑顔で親切に接して下さったおかげで、なんとか乗り越えることができた。また、ゼミの先生が作業の様子を見に来て下さった。頼りがいのある先生だなと感じた。

このインターンシップを経験し、やり遂げたことで自信をもつことができた。

— 実習プログラム —

日数	実習日	実習内容
1日目	8月23日(火)	内勤の作業。注記、水洗、拓本(注記、水洗は内勤の方に教えていただきながら作業をした。拓本は先生が教えてくださった。今回注記した土器は縄文時代中期の土器。)
2日目	8月24日(水)	外での発掘作業。みで土を運んだり、じょれんで土を削ったり、いしょくで泥を削る。
3日目	8月25日(木)	外での発掘作業。みで土を運んだり、じょれんで土を削ったり、いしょくで泥を削る。
4日目	8月26日(金)	外での発掘作業。みで土を運んだり、じょれんで土を削ったり、いしょくで泥を削る。
5日目	8月29日(月)	内勤の作業。水洗、その他雑用(水洗はもろい土器をや優しく磨き、そうでない土器は強く磨く。磨いたときに、下に流れた水が濁らなくなったら終わり。)